

令和4年度第3回社会教育委員の会議 議事録

令和4年度第3回清瀬市社会教育委員の会議が令和4年8月29日に開催された。出席委員、議事の概要は次のとおり。

- 1 日 時 令和4年8月29日（月）午前10時00分～11時30分
- 2 開催場所 清瀬市役所4階 研修室1（対面開催）
- 3 出席委員 （対面参加）
高井正議長、齊藤しのぶ副議長、西田由美子委員、松山鮎子委員、玉置昌也委員
（オンライン参加）
松山委員
- 4 事務局 金子雅広（生涯学習スポーツ課長）、峰岸義治（生涯学習係長）、若林幹輝（生涯学習係主事）

1 開会

高井議長：第3回社会教育委員の会議の開会を宣言。

事務局：資料の確認（社会教育関係団体補助金、学校運営協議会）

永嶋委員、相蘇委員欠席の旨を報告。

（事務局）

今回会議は、報告事項と議題を一つを予定している。

それでは、進行については、高井議長にお願いしたい。

2 報告

学校運営協議会委員及び第1回学校運営協議会の報告について

（高井議長）

冒頭で報告事項を先に行い、その後意見交換を行う予定である。事務局から意見交換に時間をとって欲しいという意向もあるので、文化協会、市民文化祭を中心に議論していければと思う。では、まず報告事項から始めていきたい。

一つ目は、学校運営協議会報告である。今年度清瀬市内初のコミュニティ・スクールが誕

生したということで、第1回学校運営協議会の様子をご報告いただければと思う。

(事務局)

まず、報告の一つ目を説明させていただく。学校運営協議会委員及び第1回学校運営協議会の報告についてである。

事前にお目通しいただいているため、一部省略し簡潔に説明させていただく。

まず、学校運営協議会委員について、以前の社会教育委員の会議で推薦者9名と報告したが、最終的に10名となった。このことについては5月の教育委員会で報告している。

次に、第1回学校運営協議会について、令和4年5月21日に清瀬第6小学校で開催された。初回の学校運営協議会ということで、各委員の自己紹介を行い、校長から挨拶と学校経営方針の説明があり、その後別室に移動し住民向け説明会を行った。

学校運営協議会の事務移管について

(事務局)

続いて、学校運営協議会の事務移管についてである。先日、令和5年度からの学校運営協議会の事務所管を生涯学習スポーツ課から教育指導課に移管することが決定した。今後、全校設置を進めていく上で、学校の教育課程、教育計画全般に関わっている教育指導課が所管することで、より円滑に導入を進めていく予定である。

(高井委員)

それでは、一旦学校運営協議会の部分で切り、少し質問などを伺う時間にしたい。

学校運営協議会がスタートしたが、今まで社会教育委員の会議の中で、六小校長が社会教育委員のメンバーということで色々な意見交換をしてきた。意見交換してきたものが積み重なった結果、学校運営協議会が進んでいると思うが、何か今この段階で確認したいことがあれば共有しておくと思う。

1回目ということで、メンバーの自己紹介があり、その後住民向けの説明会があったということである。保護者の方の反応などの状況がもし掴めているのであれば、教えていただきたい。

(事務局)

保護者は50名程度いらっしやっていた。質問はあまりなかったため、正直反応は分からない部分がある。ただ、意見として、「初歩から説明してくれて学校運営協議会の内容が分かった。」という声があった。おそらく、学校運営協議会について全く知らない方がほとんどだったと思うので、菊地校長が一から説明いただいたことで理解が深まったのではないかと感じた。

(高井議長)

社会教育委員の会議で様々な意見が出た中で、作ることが目的ではなく、作る過程がとても大事で、そこで理解しながら、作る段階で様々なプロセスを大事に話し合っていた。学校運営協議会がどのようなものか関係各所に共有している段階だと思うので、是非丁寧に進めていただければと思う。

(齊藤副議長)

六小地域の方々には多くの情報が届いていると思うが、それ以外の地域の方にはコミュニティ・スクールについてあまり情報が入ってこない感じがする。市内でコミュニティ・スクールが導入されるという話題もあまり聞こえてこない。もう少し、市内全域に対してお知らせした方がいいのかなと思った。

(高井議長)

教育委員会が主導して設置するというよりも、各学校が望んでコミュニティ・スクールになっていくことが大切である。各学校が必要だと思って自ずとコミュニティ・スクール化していく動きに繋がるようにすることが必要。次に繋がるように情報発信などもお願いしたいと思っている。

(高井議長)

教育委員会もサポートしながら充実していくように周知をお願いできればと思う。

教育指導課ということは、生涯学習スポーツ課とは違った立場の方たちであり、コミュニティ・スクールは地域の方の応援が不可欠なものなので、今後も生涯学習スポーツ課の力を借りながら進めていくことになると思う。教育委員会全体での取り組みになると思うので、ネットワークでの情報交換を大事に進めていただきたい。

続いて、20歳のつどいのご説明をお願いしたい。

令和5年清瀬市20歳のつどいについて

(事務局)

まず、日程としては、まだ予定の段階ではあるが、令和5年1月8日(日)を予定している。場所は清瀬けやきホールを予定。これは例年通りである。

開催方法は、昨年に引き続き感染拡大に配慮しながら2回に分けて実施したいと考えている。

1回目は、開場が9時40分、式典は10時から11時の1時間。

2回目は、開場が11時40分から、式典が12時から1時の1時間を予定。

各回学区ごとに2回に分けを行う予定である。

対象人数としては762名。

来場予想人数は、例年7割程度の来場があるため、533名を予想している。

時間については、式典が30分程度、お祝い企画を30分程度を予定している。

お祝い企画は二つ考えている。

一つ目は、中学3年の時の恩師から20歳の方に向けてメッセージ映像の上映を15分程度で予定している。

もう一つは、実行委員会企画によるアトラクションを予定。こちらも15分程度を予定しているので、合わせて30分。

来賓の招待は縮小する予定である。

また、新型コロナウイルス感染拡大で会場での開催が難しい場合、また、感染症対策で当日の式典の参加を見送る人のために、お祝いの言葉の動画配信も実施する予定である。

続いて、実行委員会についての説明をする。

従来成人式は、清瀬市教育委員会が企画と運営を行ってきた。しかし、地域活性化及び市民協働の観点から、当該年度に20歳、及び、次年度に20歳を迎えられる方を企画と運営に加えることによって、20歳のお祝いをより盛り上げられると考え設立することとなった。実行委員会委員の活動期間は、令和4年の7月10日から令和5年の2月18日である。

先日、第1回の実行委員会を8月25日に対面とオンラインを組み合わせながら開催した。今後、月1回開催していく予定である。

実行委員会の具体的な活動依頼内容は四つである。

一つ目は、司会と式典の運営で、式典当日の司会や抱負の発表などをしていただく予定である。

二つ目に、会場の運営である。式典当日の動線案内や清瀬市職員のお手伝いをしていただく予定である。

三つ目に、アトラクション等の企画運営である。式典当日の催しや付随するイベントの企画運営を行っていただく。

四つ目に、次年度式典の予算策定である。次年度の式典に際し、要求したい備品や消耗品などの決定をしていただく。

続いて、実行委員会の人数であるが、現在9名おり定員は10名である。

年齢は19歳が5名、20歳の方が4名。学校の内訳としては、清瀬中学校が2人、第2中学校が3人、第3中学校が2人、第5中学校が1人、私立中学の方が1人、という内訳になっている。

市報とホームページで令和4年5月から6月に募集を行った。

(高井議長)

私の感想を最初に申し上げたい。今まで実行委員会でやっていくということを社会教育

委員の会議でもお話させていただいていたので、今回初めて実現できたことはとても良かったと思う。今まで社会教育委員の会議の中で、アトラクションを決めたり色々な意見を交換しながら当日のお手伝いもやってきているので、このような形で実施するのであれば、社会教育委員の会議に事前に一言頂かないと、私たちの立場が無くなってしまう。利用してくれるのは良いが、色々な相談に対し様々な努力をしているわけである。進め方について少し疑問に思ったので、もう少し考えて運営をしていただきたい。

苦言を述べてしまったが、それとは別に、今までずっと実行委員会でやろうとしていたがなかなか出来なかつたことを実現していただくのは、とてもすばらしいと思うので、是非皆さんの力が発揮できるような形で実施していただければと思う。細かく言えば、先ほど運営について「職員のお手伝い」という話があったが、主体は新成人なので逆にお手伝いするのは職員の方かもしれない。事務局には、実行委員の方が動いていくサポートをお願いしたいと思っている。

玉置委員と西田委員も成人式に参加されているご経験から、何かご意見やコメントがあればいただきたい。

(玉置委員)

実行委員の構成が19歳と20歳の方ということだが、これは現役の新成人ということか。先輩などが入ってアドバイスすることはなく、全くゼロからということなのか。

(事務局)

今年初めて設けるもので19歳の方もいらっしゃる。この方たちには、1回目の実行委員会の時に来年度も継続して欲しいことをお願いしている。玉置委員がおっしゃったように、どんどん繋がっていけば良いと考えている。19歳の方々には、活動を継続してほしいことについてよく理解していただいて、前向きに検討してくれている。

(玉置委員)

全く新しいものを作っているということである。

(事務局)

ただ、まだ新型コロナウイルスの関係で従来実施していたアトラクションが出来ないので、今回は実行委員の方々に色々と考えていただいている。清瀬市をアピールできるものをプレゼントしたいと思う。昨年度は、「きよはち」という清瀬産のはちみつとけやきの木の年輪プレートをお渡しした。今年度は「きよはち」に加えてその他もう一つ何かできないか考えてもらっていて、プレゼントの方法について今までは事務局で考えていたが、今回は実行委員の方に考えていただいている。

感染症対策として、短時間で密にならないような方法で検討してもらっている。1回目の

実行委員会の中で色々な意見があったが、やはり清瀬といえば野菜という意見でまとめ、「野菜のブーケ」を作ることが出来ないかという意見があった。ただ、式典が1月で色とりどりの華やかな野菜が無い時期で、白菜や大根などブーケになりづらいものしか無さそうなので、悩みどころである。

市内の農家先をお願いするには、9月の農業委員会をお願いに行き協力を得る必要がある。協力が得られたら、試験的に今年の実行委員の方には次回どんなものを作ろうかというお話をさせていただき流れになっている。次の農業委員会が9月にあるので、そちらに出向いて趣旨を説明して賛同いただきたいと考えている。

(高井議長)

抽選で当たった方にプレゼントがあるのか。

(事務局)

おっしゃる通りである。前は、インスタに写真を上げた方にプレゼントをした。ただ、応募が少なかったため、実行委員会の方々には、事務局が考えるよりも楽しい企画を考えていただいているので、従来通りインスタを使うか否かも含めて実行委員会に考えていただいている。

(高井議長)

大変良い取り組みだと思う。

(高井議長)

実行委員会は清瀬市の取り組みへ参画していくということである。参画したものが色々な形で次へ繋がっていくと嬉しいと思う。是非来年度も実行委員になって上手く継続してもらえるように取り組んでいただければと思う。

もう一つ、都市社連協についてもご説明をお願いしたい。

東京都市町村社会教育連絡協議会の会議予定について

(事務局)

東京都市町村社会教育委員連絡協議会役員会等の事業日程の一覧表である。ここに書いてある中で基本的に参加する予定のものは三つある。

まず一つ目は、令和4年11月10日・11日の関東甲信越静社会教育研究大会山梨大会。議長、副議長、事務局で参加予定である。

二つ目は、令和4年12月10日の交流大会。昭島市で開催される予定で、基本的に全員で参加予定である。

続いて、令和5年の4月15日の定期総会。こちらも今年の幹事市の昭島市で開催予定で、全員参加予定である。

手元資料には書いていないが、令和4年10月26日に第4ブロック研修会が小平市で開催予定。こちらも基本的に全員参加予定である。各ブロックごとに発表時間を設けているようなので、今後小平市から発表に関する取りまとめがある予定である。

(高井議長)

関東甲信越静の方には、清瀬市からはあまり参加していないのか。

(事務局)

毎年参加している。全体会と分科会があるが、数年前までは全体会だけ参加していた。近年は分科会に参加していて、今年も分科会の方に参加した方が良いと考えている。全体会はアトラクションや講演会が中心になるため、分科会の方が具体的に絞られたテーマがあり、より参加する意味があると思っている。

予算の関係で、日帰りでのみの参加を予定している。

(高井議長)

申し込みはいつまでか。

(事務局)

8月31日水曜日なので、もしご予定が分かれば本日教えていただきたい。

(高井議長)

私は午前中が授業のため残念ながら参加出来ないが、ご都合の合う方は今日明日くらいで事務局にご連絡いただければと思う。

また、その他にも12月10日の交流大会や来年の定期総会などもあるので、その都度連絡があると思うが参加を検討いただければと思う。10月26日の第4ブロック研修会では、近隣市の方々と色々な話し合いができるので、可能であればご参加いただければと思う。研修会で会った方を覚えておくと、徐々に交流が出来るようになる。私も何回か参加して勉強になることがたくさんあったと思っている。

2 意見交換

清瀬市文化協会の今後の在り方について

(高井議長)

続いて、意見交換ということで、「清瀬市文化協会のあり方」というお題をいただいている。清瀬市の文化協会が高齢化している現状と市民文化祭というのが組み合わせであるが、それら豊かにするためにはどのような方策があるか、についての意見交換を社会教育委員の会議で行ってほしいという要望を頂いているので、残りの時間で検討出来ればと思う。

特に文化協会の高齢化による存続の問題、また市民文化祭の今後、この二つの部分に沿って意見が欲しいということなので、文化協会の状況や文化祭の様子をご説明いただいた上で、今後どのように取り組んだら良いか自由な意見交換をしていければと思う。

前回、私の方から清瀬市の総合計画などで文化についてどのように考えているのか把握する必要がある、と申し上げたので、今回そのことについても触れていただく予定である。市の総合計画の状況、文化協会や市民文化祭の様子について情報共有し、理解するというところで、まずはご説明をお願いできればと思う。

(事務局)

お手元の意見交換進行表という流れに沿って説明させていただきたい。

前回の会議で、全体的な清瀬市の文化振興についてご意見をいただきたい、と申し上げたが、「市民文化祭の今後について」という部分に絞ってご意見をいただきたいと考えている。

また、このテーマについて諮問や答申という形をとることを検討していると申し上げたが、そのような形をとるのであれば、各分野の専門家を入れて進めなければ議論は難しい、というご意見をいただいたため、その後事務局で協議し、このテーマの意見交換のゴールとしては、社会教育委員の会議からの「報告書」や「提案書」という形で今年度中に意見をまとめたいと考えている。

次に、清瀬市の方針について説明したい。前回の会議で、議長から清瀬市の長期総合計画で文化をどのように扱っているか、なども把握する必要があるというご意見がありましたので、清瀬市の方針について説明させていただきたい。

長期総合計画では、施策の123、文化芸術スポーツ活動の支援という項目がある。これは、市民が文化的な生活を送ることができるように、清瀬けやきホールや生涯学習センターを初めとした施設で様々な事業を実施し、文化芸術に身近に触れ取り組むきっかけとなる機会を提供するというものである。

また、文化芸術活動を通じた交流を促進し、地域の活性化が図られるよう市民文化祭や様々な団体による自主的な活動を支援すると定めている。

続いて、教育総合計画マスタープランの実行計画である。この中で、方向性3というのがあり、「生きる力や考える力を高め、伝えるための世代を超えた学びの場の提供」という部分があり、関連する事務事業項目に、「市民文化祭の開催」という項目がある。以上のようになっており、文化振興基本計画や条例等の大元の方針になるようなものは現在はない。

次に、清瀬市文化協会の西澤会長に現状の協会の課題や問題点について伺ったことにつ

いて説明する。協会の課題として挙げられていたのが、大きく分けて二つである。

一つ目は、役員をなかなか受けてもらえないということ。

二つ目が、協会への加盟希望者が減少していること。

まず、役員をなかなか受けてもらえないということについては、一つ目に、高齢化が進みそれぞれ団体として活動していても幹事会に理事として出席するのがやっとなため、なかなか受けていただけないということである。二つ目に、文化協会に加盟してない他のサークル活動なども忙しく、なかなか役員を受けてもらうことができない。三つ目に、現在は毎月開催していた理事会を回数を減らしたり時間を短縮しながら実施しているということであった。

次に、協会への加盟者の減少については、一つ目に、市民文化祭の一般参加であれば1人400円出せば文化祭に出演出展できるため、理事会に出席しなくても良いし当日の手伝いもなくして楽であるとの理由から、協会に入るメリットがないと感じている人が多い。そのため、協会を脱退し一般参加者として出てくる団体もある。以上の部分を、課題だと感じているとのことであった。

この意見交換の時間では、これらの課題を解決するような方策やアイデアを出していただきたいと思う。

まずは、事務局から今後文化協会を衰退させないため、そして、市民文化祭を盛り上げるための案を何点か挙げさせていただきたい。

一つ目に、市内公共施設のコミュニティプラザひまわり等のイベントや、他のイベント（農業祭りや市民祭り）等とコラボすることで、市民文化祭のサブイベントとしても楽しんでもらい、新たに文化祭と文化活動に興味を持ってくれる人を増やす。

二つ目に、体験型のブースなどを増やし、来場者に楽しんでもらう。現在、体験は茶道、華道、ちぎり絵などに限られているので、体験できる催し物を増やすことで今後文化活動に興味を持ってくれる人や代表者を増やしたい。

三つ目に、協会への加盟希望者の減少については、協会に入ることのメリットを感じてもらえるような仕組みを作っていく。例えば、協会に入ると活動団体への補助がある、なども考えられる。一般参加には、ここ数年バレエやダンスなどの若い世代の参加者が少しずつ増えてきているので、このような方々に文化協会に加盟したいと思ってもらえるようになることが必要。

四つ目に、役員を受けてもらえないことについて、根本的な原因は高齢化が進んでいることにあると思うので、少しでも若返りを図ることができる方策や高齢化が進んでいても役員を受けてもらえるような仕組みを作ることが必要。

お手元の資料には明記されていないが、もう二つ挙げさせていただきたい。これは、前回の会議で高井議長からスタンプラリーのお話があったが、例えば、クイズやスタンプラリーなど、子供向けのイベントを同時に組み込むことで多世代交流を実現するようにする。

もう一つ、例えば、キッチンカー等を出展させイベントやフェスティバル感を演出するこ

とで、様々な層の方に立ち寄ってもらうようにする。

事務局案としては以上である。

次に、文化協会から今年度の市民文化祭に清瀬高校の出演が決定したという報告があったためご説明する。展示部門は美術部と写真部、舞台部門はダンス部が出演予定で、ダンスは十分程度の演目を予定している。昨年度まで毎年出演していただいた清明ソーランは、現在コロナ禍で活動していないため出演無しである。

事務局からは最低限の情報提供になってしまうが、このような状況を踏まえながら意見交換をしていただきたい。

(高井議長)

大体資料も読ませていただいたが、大きな清瀬市の文化振興という部分ではなく、まず今回は、「文化協会と市民文化祭の今後」ということについて話しをして欲しいというご要望をいただいた。つまり、かなり個別具体的な話をこれからしていくのかなと思う。その前提として、市の大きな考え方ということで「長期総合計画」や「教育マスタープラン」のことをお話しいただいた。今の説明を受けながらどのように議論した方が良いか考えてみたが、考え方としては、協会自体がこのままだと無くなってしまふかもしれないような状況があるので、そこをどうするのかという議論と、市民文化祭をどのように豊かにするか、また、どのように若い参加者を増やすかということ、この両者は一緒に語ることではないという気もしている。

市民文化祭に若い人が入ってくることによって、文化協会にも若者が加盟してくれるというような流れが一番いいと思うが、市民文化祭をどのようにするかについては意見が出やすいと思うが、文化協会自体をどのようにしていくかという部分の議論は難しいと思いつながりながら聞いていた。

どのように議論していくかについても、提案があれば議論しながら進めていければと思っている。まずは、硬くならずにご説明を受けて確認をしてみたい部分はあるか。

文化協会に加盟しているのは30団体程度であるか。文化協会のパンフレットなどはあるのか。

(事務局)

会自体はパンフレットを発行していないが、市民文化祭のパンフレットは協会が作成している。

(高井議長)

体育協会はパンフレットを作っているか。

(玉置委員)

パンフレットは無くホームページでの周知のみである。

(事務局)

文化協会は特にホームページはない。文化協会単独では作っていないので、文化祭の周知等は市の公式ホームページで行っている。

(高井議長)

文化協会の入会を促す時に、文化協会の基本的な情報が載っていて紹介できるものがあると良いと思った。所属することの価値を高めることに繋がるかもしれない。

市民文化祭の主催は文化協会なのか。

(事務局)

主催は清瀬市文化協会、後援が清瀬市である。

(高井議長)

実際に主催団体として基本的な運営は全部担っていただいているのか。市によっては職員が大部分を手伝ってしまってる場合もあるので、伺いたい。

(事務局)

運営は文化協会の方でしっかりとやっていただいている。補助金についても全て文化祭の経費に充てている。

文化祭の時に展示部門で展示パネルを必要とするが、高齢化が進んでいる影響でパネルが重く会場までの運搬が徐々に難しくなり、作業が大変になってきているという相談があったため、今年度からは事務局の方でパネル運搬のお手伝いが出来ればと考えているが、基本的に全て運営は文化協会で行っていただいている。

(高井議長)

それでは、しっかりと役割を果たしているということである。文化協会もまだ多くの可能性があると感じた。どのようなことでも質問していただければ良いが、いかがであるか。

(齊藤副議長)

今年度の文化祭の日程は決まっているか。

(事務局)

今年度は11月5日(土)、11月6日(日)の2日間開催予定である。清瀬けやきホールが舞台部門、生涯学習センターが展示部門。

(齊藤副議長)

文化祭が開かれていることは知っていたが、なかなか足を運ぶきっかけがなかったので、今回は是非どのような状況か確認させていただきたいと思う。

(高井議長)

実際に見ておくと意見が出しやすくなると思う。今年は文化祭の準備が着々と進んでいる訳なので、そうすると、市民文化祭の今後について私たちが議論するというよりは、文化祭を盛り上げるためのアイデアや方策を議論することを私たちは求められているのかと思う。1人400円出せば出演出展できる一般参加は今年も継続するのか。

文化協会の方々自身は今後どうして行きたいと思っているかなどの議論をしているのか。

(事務局)

文化協会の方の役員の方も、今後どのようにしたいかということについて、なかなかそこまで議論されていないと感じている。高齢化でなかなか会議への出席が難しく、議論する場が設けられないということも伺っている。

(高井議長)

幹事会は、各団体の代表者で数か月に1回集まっていて、日頃の運営は役員が行っているという組織ということである。役員のなり手がいないという課題があることも分かり、少しずつ状況が分かってきたところであるが、何か確認したいことはあるか。

(西田委員)

文化協会の課題は、おそらくずっと続いていくことだと思う。とてもきつい言い方かもしれないが、「衰退させないため」という部分が私は引っかかっている。例えば、別の形でリニューアルするという考え方もあると思う。例えば、文化と言っても、華道、茶道、ちぎり絵、等以外でも、若い子だったら例えばアニメやITなど、興味の対象を若手の方に絞ってリニューアルさせるのも良いと思う。もちろん今の形を引き継ぐ部分があって良いと思うが、拡大という形で「新文化協会」のような考え方でも良いのではないか。

(事務局)

そもそも文化協会は、自分たちの文化活動をしている中でその発表の場として市民文化祭があり、そこに向けて色々な準備をしている団体である。今は一般参加枠があり、文化協会に入らなくても発表する場があるので、どうしても皆さん楽な方に行ってしまう部分があると思う。文化協会に加盟せず、発表の場だけを求め一般参加に申込みをする方が非常に増えていることは一つの問題である、と会長の方から伺っている。

ただ、「文化協会に加盟しなければ、市民文化祭には出れません」としてしまうと、新しい人や若い人たちの参加が無くなってしまうので、間口を広げることで少しでも一般参加者の中から文化協会に入っただけの方を増やしたい、と文化協会で考えていると思う。

(高井議長)

市民文化祭の運営については様々なやり方が考えられると思うが、文化協会の存続については、ご本人たちがどうするかという話になってくる部分である。

文化協会のそもそもの設置目的やミッションが、「市民文化祭の開催」だけであれば、市民文化祭をどのように行うかの議論で済むかもしれないが、文化協会を生き残らせるための議論は全く意味がないわけではないと思うが、無理に残すことでどのような意味があるのか、という話になると思う。

西田委員が仰ったことは、文化協会が無くなったところで必要があればまた生まれてくるので、文化協会を無くすということも含めて議論すべきだという意見であった。存続することが目的になってしまうと、活動が面白くなってしまいうことも考えられる。

(玉置委員)

文化協会に加盟するための年会費はどの程度であるか。

(事務局)

年会費は200円。1団体1人200円を年会費として徴収している。これが団体の加盟料でもある。

(高井議長)

10名の団体であれば、10名から200円徴収する。それが市民文化祭への出演料みたいな形にもなっているということである。

(事務局)

このように、協会加盟者と一般参加者の差があまりないので、役員を受ける必要がなく前日の準備もせず片付けもしなくていい、という一般参加に惹かれてしまうという状況は悪い流れだと感じている。

(玉置委員)

会場の清瀬けやきホールやアミューの使用料はどこから出ているのか。

(事務局)

清瀬けやきホールについては補助金を充てている。学習センターは市直営施設で我々が

管理しているため、使用料は受け取っていない。

(玉置委員)

特に運営経費がかかっていないということか。

(事務局)

けやきホールはかかっている。

(玉置委員)

一般の方の参加費400円で賄われてるということか。

(事務局)

賄えていないため、市の補助金を充てている。

大きい支出としては、パンフレット作成費、市民文化祭のけやきホールの施設使用料、照明器具などの備品使用代、舞台専門スタッフの方の費用、文化祭実施の打合せをするための会議室代、などとなっている。

(高井議長)

分かったこととしては、文化協会へ加盟する際、団体の構成員分の加盟料を1人200円払っている。そうすると、文化祭には無料で参加できる。一般の方は400円払えば出展できる。文化協会に加盟している方と一般の方が200円しか差がないので、あまり協会加盟のメリットが感じられない状況だということである。

松山委員、ここまでで何か質問などあるか。

(松山委員)

お話を伺って感じたことを少しお伝えしたい。

まず率直に感じたのは、先程のご意見の中にもあったと思うが、文化協会の課題として、役員を受けてもらえない、参加希望者が減少している、ということが述べられていたが、むしろ課題は、清瀬の文化活動の方向性や理念のようなものが現状あまり感じられないことだと思う。参加希望者が無いことよりは、むしろなぜ参加希望者がいないかと考えたときに、文化協会の今後のビジョンがないことの方が課題だと私は感じた。先程、存続ありきの議論になっているというお話と重なると思うが、若い方々で文化活動をされてる方は多くいると思うが、そういう方々のニーズと噛み合っていない部分が結構あるのではないかと感じていて、何かの課題があるとしたら、むしろ清瀬の文化活動を通して様々な団体や住民の方々が協働することを通して、こんなことをしてみたいとか、清瀬をこんな風にしたい、という部分があまり話し合われていなかったり、理念が共有されていないことの方が課題な

のではないかと私は思った。

計画を見ても、地域の活性化や世代を超えた学びの場を作っていく、という目標が掲げられていると思うが、既存の文化協会がその部分をきちんと実現していくような団体になっているのかを問うた時、それがしっかりと出来ていないとすれば、私はその部分が課題なのではないかと思う。

(高井議長)

「根本の問題を解決する視点無しに、現状どうするかという視点だけでは足りない」というご指摘だと思う。前回の会議では「清瀬の文化振興」についての意見をいただきたいということだったので、どのような方向性で文化振興していくのかという議論があった上で、文化協会はどのような役割なのか、また、市民文化祭とは何か、というような流れで議論していくことが良いと考えていた。

しかし、今回文化協会と文化祭の今後という部分で意見をいただきたいということである。

残念ながら先程の報告のように、文化振興の基本的な大元の方針がない中で色々な議論をしているのは、松山委員がおっしゃる通りだと思う。文化協会は何のために存在するのかというところも課題であると思うし、その大元の市としての方向性や考え方も一方で問われている。その中で色々なことが同時に出てきているので、どのように議論していくか非常に難しいと思いながら進行している。

私が足立区の社会教育委員の会議の事務局を担当してる時、足立区の文化芸術をどのように振興するか、という諮問をした。芸大の副学部長や文化政策の社会科学研究所の方、足立区の文化協会の代表などにも入っていただきながら、10名の委員で年間を通して審議を行った。自治体としてどのように文化芸術を考えるのか、どのような方法で執行していくのか、それらの観点から話していくための条例が必要だということになり、中間の答申をまず一本出していただいて、それを基に文化芸術基本条例を作成した。議会で決定したが、その条例の中に「計画を作成する」ということを記載し、残りの1年間で「どのような計画を作成するのか」という議論を行った。

その後、最終答申を出していただき、答申の後には文化課というセクションを中心に計画を作成した。その際、東大の大学院生に多く関わっていただいた。

足立区の文化芸術基本条例に基づいて、基本理念や、区民とは何か、区の責務は何か、区民への期待は何か、学校・民間団体・民間事業者への期待は何か、というものを項目を作り検討し取り組んだ。その程度の経験しかないが、そういう意味では、大元の市の考え方はどのようなものか、その辺の計画について少し整理しようと思っていた。

大きな方向性がないまま、文化協会や文化祭の話をして議論が浮ついてしまうかもしれない。しかし、市からはそのような要望を頂いているので、議論の進め方についてもご意見があれば出していただければと思う。

事務局の方も含めて、議論の進め方について1つでも自由に意見を出してもらえればと思う。

(齊藤副議長)

そもそも本来文化協会が担っている役割は、市民の方々に文化を広めるなどの役割も担ってもらっているのか。

(事務局)

本来そのような部分を担ってもらっているが、現状は市民文化祭の開催がメインになっている。文化協会の規約があるが、そこには、清瀬市の文化振興を担って若い世代に伝えていただきたい、という内容が入っている。理想と現実が乖離している状況なので、両者を近づけていくことが必要である。

(齊藤副議長)

今までも数十年文化協会が存在しているわけで、その中でなぜそういった部分が出来ていなかったのか疑問ではあるが、例えば、市民の所に出向いて文化活動を行うことに努めたとか、何か事例などがあったら教えて欲しい。本当は文化振興という部分も担っていないといけないのに文化祭だけに偏ってしまっていて、なぜ文化振興などの部分を今までやっていなかったのか、疑問に思ってしまう。

(事務局)

全くやっていなかったわけではない。ここ数年はコロナの影響で活動が出来ていないが、数年前までは文化協会の加盟団体が自主活動として、福祉施設、学校、児童養護施設などへ各自の文化活動を広め伝えるため、年間を通して出張を行っていた。しかしながら、あくまで市民文化祭がメインであり、そのような自主活動の割合は大きくない。さらに、ここ数年はコロナの影響で自主活動ができていないため、より文化祭に偏重してしまっている。

(高井議長)

松山委員はこの議論についてどのような意見交換をしたら良いか、何かお考えなどあるか。

(松山委員)

例えば、今思いつきであるが、市内で様々な世代の方が発表されているというお話だったので、皆さんに一度集まっていただいて、協会ありきの議論ではなく、文化活動を通して「清瀬をこんな風にしてみたい」などの議論をワークショップ形式で出来ると良いのではないかと。その中で、こういう風にしてみたいというものが出来た時に、それを実現していくに

はどのような形や協働のあり方が考えられるのか、などを考えて、そこから協会のあり方を捉え返すというやり方が一つあるのかなと思った。

よって、協会の現メンバーだけで話し合うと既存の考え方にこだわってしまうかもしれないし、そんなつもりじゃなかったと思われる方もいるかもしれないので、前向きに話し合うワークショップ形式の「対話の場」があると良いのかなと思う。

集まってもらう方は色々な方がいていいと思うが、例えばきっかけとしては、文化際場で発表された団体の方に声を掛けるということが考えられるかと思う。幅広い世代の方が来ると良いかもしれない。

(高井議長)

このような意見が多く出てくるとそこからまた具体的なものを発見出来ることがあるので、思いついたことをどんどん出していただけたらと思う。

今回、清瀬高校の方も出て下さることなので、色々な方と話ができれば良いと思う。「まちづくり」というところでは、ハード面のまちづくりを含めて色々なワークショップが行われてきている。

文化協会ありきではなく、少し違ったところからもう一度改めて考える場面というのが必要になってくると改めて感じたところである。

現実的には、400円出して一般参加で出演・出展する方が多くいるわけである。それは関心がある方がたくさんいるということだと思う。今までのことを前提として考えず、枠を取って話をしていくことももしかしたら必要なのかなと思う。

体育協会は、市民文化祭のように体育協会が全体で取り組んでいくような事業はあるのか。

(玉置委員)

今までは「市民マラソン大会」というものがあつたが、新型コロナウイルス等の影響で2年くらい実施できていない。前回の会議で文化協会の話を聞いて感じたが、スポーツの方でも文化協会の高齢化と同じような現象が今起きている。若い方が役員をやりたいがらないなども同じ状況である。

「スポーツフェスティバル」みたいなものを検討していて、今企画案を出して次年度に向けて検討しているところである。体育協会主催で清瀬の運動施設などもアピール出来ればと考えている。

市民文化祭では、小学生や中学生の展示は無いのか。これは大人だけの文化祭か。

(事務局)

展示部門では、今のところは無い。ただ、大会部門で子ども向けの「将棋大会」を行っており、大人のみがターゲットではない。

(玉置委員)

スポーツもそうだが、子供が来れば保護者の方もセットで来る。とにかくその場に来てもらうことが大切で、来てもらえれば新たな分野に興味をもって繋がっていく可能性がある。

(高井議長)

体育協会がスポーツフェスティバルのようなものを協会で行き組んでいく場合、清瀬のスポーツ施設を利用してもらってスポーツを多くの人に楽しんでもらう、という部分で清瀬市のスポーツ振興の一翼を担っていくということだと思ふ。そういう意味では、市民文化祭も清瀬市の文化振興の一翼を担うということをして文化協会で行ってきた歴史がずっと今まであったのだと思ふ。そういう意味では、とても意味や意義がある事業である。なおかつ、今年も市民文化祭を運営できる体力はまだあるわけであるが、だんだんこれから尻つぼみになってしまうことが予想される中で、もう一度文化協会は何をやって何を担っていくのか、何を目指していくのか、という確認を文化協会の方もしなくてはいけない時期だと思ふ。ただ、それを考えていく時には、例えば私たちの立場から助言を行ったり、先程玉置委員がおっしゃっていた、学校に出向いての俳句授業や華道などを教え、その子供たちがまたそこに参加して来たり教える立場になったりして、単にこの発表の場一発ではなく何か少し循環できるようになってくると良い。

文化協会の存続の意義やミッションを確認した上で、その実現に向けてプロセスを作り、プロセスの最後の一つの成果として文化祭に繋がっていく、など何か改めてミッションとプロセスを考え直すことが文化協会と市民文化祭の今後のあり方に関わっていくようなイメージが出てきたと今までのお話を聞いて感じた。

一方では、文化協会と市民文化祭のことを考えつつ、松山委員が仰っていたが、改めて文化で何をやっていこうとしているのかなど、そういった部分を多世代で交流しワークショップをしながら考え、文化の大切さ、文化を通じた清瀬の方向性を考えていくことが必要ということである。

全てを文化協会や教育委員会だけで実施しようとするとう実現不可能な話になってしまうので、コミュニティプラザや地域市民センターなど様々な主体が清瀬の中にあるので、文化祭には参加していない団体なども含めてそれぞれの持ち味を出しながら進めていけるような、大きな視点も必要だと感じた。

今日は、結論や方向性を出す訳ではないが、大きな文化協会のミッションと市全体でどのようにしていくのかという部分をもっと捉え、ミッションの実現と文化祭の持つ役割、ミッションを受けた文化祭の意味がきつとある、ということをして徐々に感じてきたところである。理念の共有の部分が最も大切である。

(齊藤委員)

今年度の文化協会のパンフレットの一番後ろに書いてあるが、清瀬高校の出演についてとても良いと思った。文化協会からお声掛けをしたのか。

(事務局)

会長の西澤氏から高校へお声掛けをした。

(齊藤委員)

高校の方も、色々な活動を市民や様々な方に発表する機会は多くないと思うので、このような発表の場があるのはとても良いと思う。

(事務局)

清明ソーランも今後また参加する可能性があるので、今後このような参加が広がっていくといいと思う。

(高井議長)

文化協会はそのそれぞれの加盟団体があり、その方たちの活動の場、かつ発表の場として市民文化祭があるわけである。しかし、それにとどまらずに清瀬で様々な文化活動をしている人たちが出会う場でもあると思う。そういった意味では、今回のように高校生が出演したり、例えば大学生のサークルが出るとか、様々な人たちが出会う場を文化協会が作り出していくことも大切である。文化や芸術を使って何かをするということになると、自分たちが演じるだけとは少し違った役割がきっとあると思う。自分たちの活動の成果を発表するだけであれば、少し市民文化祭や文化協会のミッションとはずれてくる感じがする。

若い方たちの場を作ったり世代を超えた出会いを作るなど、そういったことがもしかしたら文化協会の一つの役割であり、市民文化祭がそのような場でもあると感じた。

ばらばらの議論で申し訳ないが、出てきた意見を少し事務局で整理していただければと思う。市民文化祭は、11月5日、6日なので、少しでも実際に見てみるとイメージが湧きやすいのではないかと思う。

(高井議長)

まだ整理は出来ていないが色々な視点の意見が出てきた。また、体育協会の取り組みも参考にしながら文化協会の役割もしっかり考えていく、ということも見えてきたと思う。基本に立ち戻ることになるかと思うが、また改めてそこも整理して次回会議で検討出来たらと思う。

事務局からその他で何かあるか。

(事務局)

その他の部分は特にないが、市民文化祭のパンフレットを実行委員会が作成しているので、事務局にパンフレットが届いたら皆さまにお見せしたいと思う。

(高井議長)

次回会議は10月24日の月曜日を予定しているので、ご予約いただければと思う。

それでは、今年度3回目の会議を終わりたいと思う。